

いってきま〜す



はじめに

文部科学省調査によると、平成19年度以降、不登校児童生徒数は減少しています。

しかし、全国では約11万5千人、兵庫県下では約4,900人（平成22年度調査）を数え、「不登校」が学校教育上重要な課題の一つになっています。

「不登校」は、家庭、学校、地域社会のそれぞれの要因が複雑に絡み合って起こるものと考えられ、近年、態様も多様化しており、その解決のためには、三者のそれぞれが努力し、緊密に連携し、協力することが不可欠です。

県教育委員会では、平成元年度に「登校拒否等問題研究協議会」を設置して以来、不登校の課題の解決に向けてさまざまな施策を行ってきました。

平成7年度には、教育相談の充実を図るために「ひょうごっ子悩み相談センター」の設置やスクールカウンセラーの派遣などにより、子どもたちの悩みの解消を図るとともに、平成8年9月には、不登校の子どもや保護者を支援するための専用施設「県立但馬やまびこの郷」を開設するなどの取り組みを進めています。

この冊子を参考に、今一度、子どもたちとのふれあいのあり方を考えていただき、すべての家庭で、毎朝、子どもたちの活気ある「いってきま〜す」の声がこだますることを願っています。

兵庫県教育委員会

も・く・じ

	ページ
9歳のだっこ.....	1
I 4年生のころは.....	2
II 豊かな心を育てよう.....	4
III 不登校とは.....	10
IV こんなときにはどうしたら？	
1 登校をしぶりだしたとき.....	12
2 全く学校へいかなくなってしまったとき.....	17
V 相談はどこでできますか？.....	22

9歳のだっこ

H・S（十歳）

おふろに入った後、お母さんに、だっこしてもらった。

わからないけれど、なつかしいかんじがした。

うれしくて、はずかしくて、すこしてれくさかった。

それを見て、妹が泣いた。

すねて、北がわの戸をしめて、泣いている。

ちよっとすき間があいていた。

お母さんは、妹をだっこした。

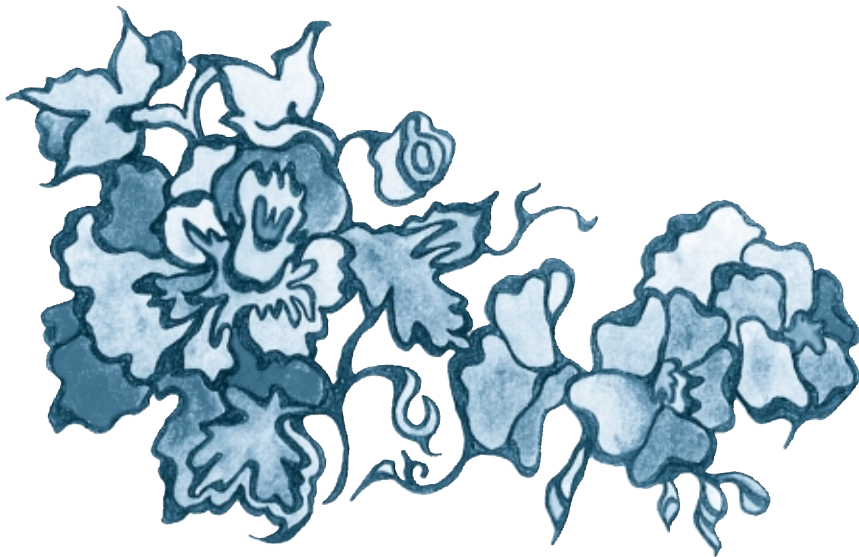
わたしは、はらがたたなかつた。

なっている妹がかわいく見えた。

なぜだろう。

だっこされて、す直になれた。

時々は、だっこされたいな。



I 4年生のころは

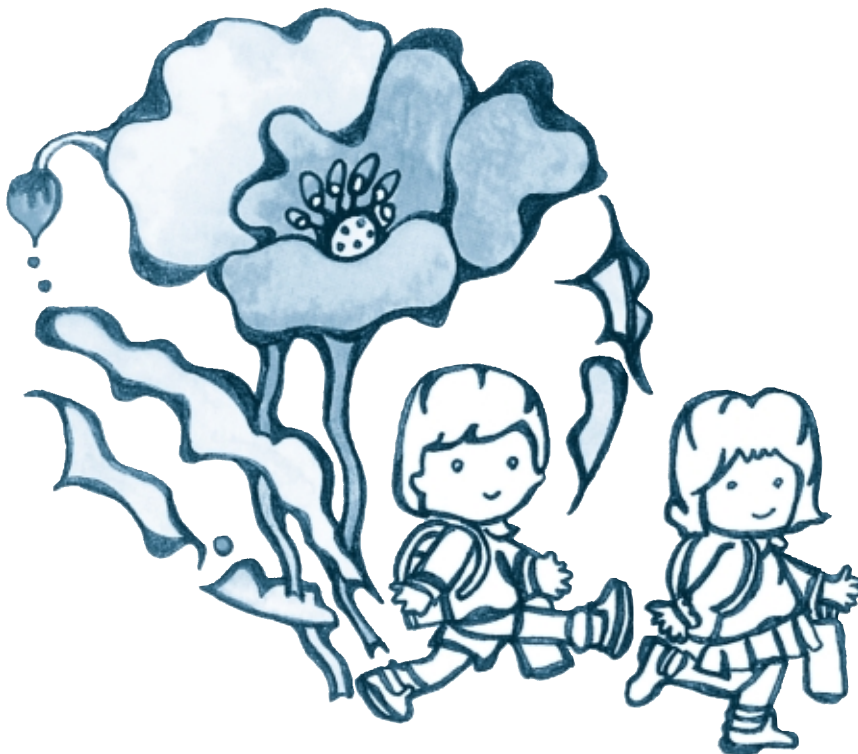
「いってきま～す」

お子さんは、今朝も元気に登校していききましたか？

今ごろ、学校で、友だちや先生と一生懸命に学習したり、楽しく遊んだり・・・そんな姿が想像できると、子どもの成長が感じられて、ほっとしてきますね。

でも、安心ばかりしてられません。

4年生のころは、小学校生活6年間の中でも、心の面で大きく変化のみられる時期なのです。これまで、親の言うことを素直に聞き、かわいく、よい子だった子どもの内面に、変化が起きているのです。



《発達の特徴》

自己主張が強くなったり、親や教師に反発したりするようになります。親や教師の言うことに矛盾があったり、身勝手なことがあったりすると、するどく批判するようになります。

仲間をつくり、いっしょに行動することが増えてきます。そして、仲間から自分がどう思われているかを気にするようにもなってきます。

発達の個人差が大きくなり、子どもによって、何に興味や関心をもつがちがってきます。



これらは、子どもが自我に目ざめ始め、自分を見つめながら成長している証あかしなのです。確かに、大人への第一歩を踏み出しているのですが、心が大きく変化するこの時期、子どもが、豊かな心を持って、力強く成長していくためには、親として子どもとどのように接していけばよいのでしょうか？

Ⅱ 豊かな心を育てよう

心の居場所をつくっていこう

安心感のある家庭をつくりましょう

家庭に安心感をもつ子は、のびのびと活動し、学習し、また落ち着きがあります。大人に対しても、安心感を与えようと努力するようにもなります。

親子で感動しましょう

子どもにとって、本当に楽しいことは家族といっしょに体験することです。「親と散歩する」「親といっしょに仕事をする」「家族で買い物をする」「家族で遊ぶ」など、いっしょに何かをして楽しい感動を親子で共有しましょう。多くの感動を体験することで、子どもは生きる力を身につけていきます。



やる気を育てよう

子どものよい面を見つけ、ほめましょう

やる気を育てるのは温かい励ましです。少しでもよい面があったらほめることが大事です。それによって、子どもは自信をもち、努力していくものです。

他の子と比べるのはやめましょう

子どもには一人一人個性があり、成長の早さも個人によって違いがあります。

他の子やきょうだいと比べて、

「もっとがんばらないといけないでしょう」

と、言いたくなるところで
すが、子どもの成長を長い目
で見守る姿勢が必要です。

キャッチボール・・・お母さんへ

ぼくが ボールをとるのをしつぱいしても 何も言わないでほしい
ぼくが ボールとれたら ほえんでくれるだけでいい
ぼくが とれそうもないボールがとれたら いっしょに喜んでほしい

にんたい 忍耐強い子に育てよう

与え過ぎないようにしましょう

子どもが欲しいものを何でも買い与えることが愛情ではありません。時には、辛抱させることも愛情です。何でも周りにあるということは、逆に何を見ても興味を示さず、感動も覚えず、豊かな感性を失うことにもなりかねません。



ダメなことはダメときっぱりと言いましょう

親が本気で子どものことを思っているなら、いくら厳しくしかっても、やがて子どもには親の愛情がわかり、自分のためを思ってそうしているのが伝わるものです。そうした愛情の中で、辛抱強さが育っていくものです。

自立心を育てよう

達成感を味わわせましょう

「窓ふき」「そうじ」「水やり」など、自分で決めた仕事を最後までやりとげることが大切です。できることをさせて、できたらほめましょう。達成感は、自信につながり、子どもの意欲や自主性を育てます。

指示はできるだけ控えましょう

「早くしなさい」「あれはダメ」「これをしなさい」など指示するばかりでは、子どもの自立心は育ちません。時間がかかろうとも、自分で判断できるまで温かく見守るなど、待つ姿勢が大切です。

友だちや地域の人と接する経験を多くしよう

地域の行事に参加しましょう

地域の行事に親子で参加することで、他人と協力しあうことの大切さ、思いやりや礼儀を学び、社会性を身につけることができます。

近所の子と外で元気に遊ぶ機会をつくりましょう

仲間といっしょに遊ぶことで社会性が育ちます。テレビゲームやテレビ中心の毎日を送っていませんか。多くの友だちと協力しあって外で遊ぶ楽しさを体験できるようにしましょう。

親として一子どもへの接し方

子どもは、親に愛してほしい、甘えさせてほしいと願っています。家庭の様々な「しつけ」には、必ず「愛情」という裏付けが必要です。もし愛情を与えずに、強制や処罰などでしつけようとしても子どもは動きません。

親に愛情があれば、子どもは望ましい行動をとるようになり、自然に、家庭のしつけができてくるものです。

では、愛情を持って接するにはどうすればよいのでしょうか。

子どもの心を開く聴^きき方

子どもが悩みを抱えているとき、親が一方的に意見を押しつけるのではなく、まず、子どもの話に耳を傾け、共感して理解を示そうという姿勢が大切です。親が愛情を持って子どもの考えを認めれば、子どもは自然に心を開き、本当の気持ちを話そうとするようになります。

「あなたは、～と思っているのね」
というように、子どもの気持ちを理解するところから始めてみましょう。



子どもの心に届く話し方

親は思いを素直に伝えなければなりません。「私」を主語にして話すと、子どもに理解されやすくなります。

「（私は）～は困る」「（私は）～がいいと思う」などの言い方であれば、子どもは親の気持ちを理解し、反発せずに納得して自分から行動するようになります。

親子の対立を解く

親子の対立は、子どもが自我に目覚めるころから始まります。対立をおそれる必要はありません。重要なことは、対立をいかに解決するかにあります。対立の結果、親が勝っても子どもが勝ってもよくありません。親が勝った場合、子どもは人間として好ましくない行動（反発、陰で悪口を言う、うそをつく、親の機嫌をとるなど）をとりがちです。また、子どもが勝った場合、子どもを甘やかせてしまう恐れがあります。

対立を解決するには、勝負をつけずに親子でよいと思う解決策を、いっしょに探すようにしましょう。子ども自身も意欲的に決めたことを守ろうとします。



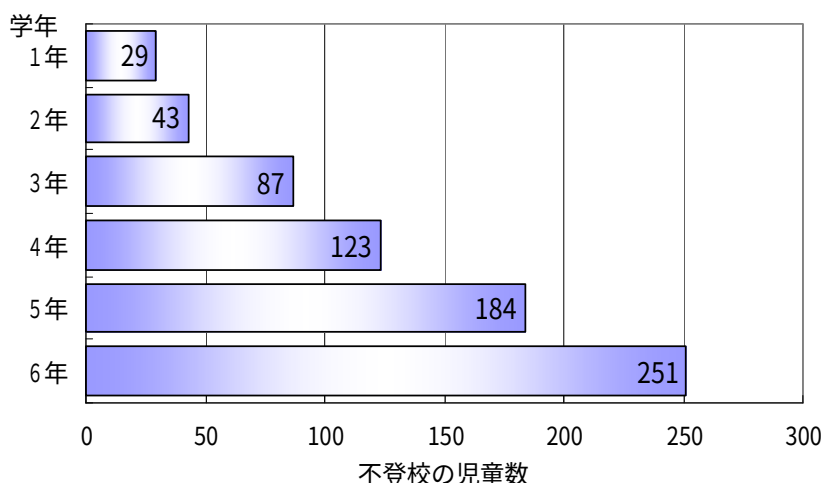
子どもの人格を尊重し、子ども自身が判断し、自分の力で行動していけるような手助けをするよう心がけましょう。

Ⅲ 不登校とは

不登校は、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくてもできなくなっている状態をいいます。

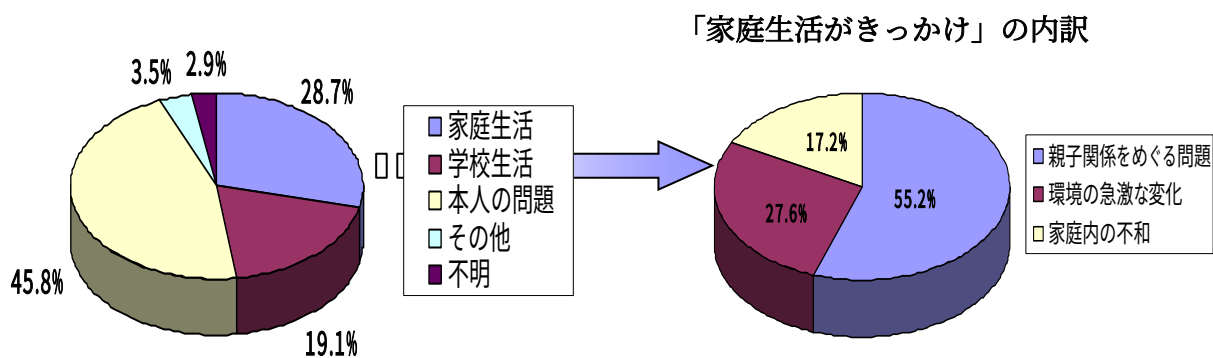
不登校の始まりは、様々なかたちをとります。朝、「おなかが痛い」「気分が悪い」などと訴えてくるのですが、小児科や内科で診察してもらってもどこも悪くなく、しかし、学校には行けないという始まり方は、わりと多く見られます。

【県下の小学校学年別不登校児童数】（平成 22 年度）



【県下の小学生の不登校のきっかけ】

県下の調査では、不登校になった直接のきっかけは、下のグラフになります。



《子どもの心は…》

学校に行かない、行けないことについて、子どもは悪いことをしているという思いを、多かれ少なかれ持っていることが多いものです。周りの大人からすると、子どもは何もしていない状態に見えますが、子ども自身は学校に行かない自分、行こうとしても行けない自分を責めているのです。

《もし、わが子が…》

不登校は高学年になるにつれて増えだしてきます。

もし、わが子が不登校になってしまったとしても、あわてず冷静に子どもを理解し、大きな心で抱きかかえていきましょう。



必ず登校できるようになります。

不登校だった子どもも、「生き生きとした生活」をとりもどします。

どの子も、たくましく伸びていこうとする力をもっています。

保護者として、わが子なりの成長を、じっくりと見守り、援助していきましょう。

Ⅳ こんなときにはどうしたら？

1 登校をしぶりだしたとき

■ 子どものようす

- ・ 登校前の時間、着替え、朝食、排便などに必要以上に時間をとってぐずぐずしている。
登校を促せば、しぶしぶ学校に行く。
- ・ 登校時になると、頭痛や腹痛などからだの不調を訴えて、登校をしぶりだしたり欠席したりする。しかし、その時間帯が過ぎると、次第に元気になってくる。

学校に行けなくなりつつある不安や苦しみをだれかに理解してもらいたい、助けてほしいとサインを送って訴えているのです。この時期にできるだけ早く援助することが大切です。

はたらきかけ

- ・ 子どもの心の理解に努め、原因を明らかにする。
 - ・ 学校へ送り出す姿勢で子どもに接する。
 - ・ 学級担任との連絡を密にする。
- 学校生活についての不満、自分の生活への不安など何らかの原因があるので、子どもがゆっくり話す機会をもち、その訴えを受け止めましょう。
 - からだの不調を訴える場合は、医師の受診を勧めてみるのもよいでしょう。ただ、診断で異常が認められなくても仮病などと決めつけしないで、症状を受け止めて下さい。
 - 担任に朝の様子を連絡し、学校での様子を知らせてもらおうとよいでしょう。そして、原因が分かれば担任と相談して解決することが大切です。

【原因が分かるときの対応】

友だちとの関係を理由に登校をしぶるとき

はたらきかけ

- ・ つらい気持ちを受け止める。
- ・ 友だち関係の修復や新しい友だちづくりを支援する。
- ・ 担任の協力を依頼する。

- 大人から見て、たいしたことでもなくとも本人には重大な問題です。本人の話をよく聞いて、そのつらい心を受け止めることが大切です。
- 友だちを家に招くなど、悩みのきっかけとなった友だち関係の修復や新しい友だちづくりを手伝いましょう。
- 周りの子どもたちへのはたらきかけが必要であれば、担任に協力をお願いしましょう。

担任の先生とあわないことを理由に登校をしぶるとき

はたらきかけ

- ・ 担任に協力を依頼する。
- ・ 担任への不信感をもたせない。

- 子どもの話を十分に聞いた上で、担任に事情をよく話し、協力して解決していくことが大切です。
- 親と担任の信頼関係を築くことが問題を解くかぎとなります。相談を繰り返す中で、担任と仲良くなれるといいですね。
- 先生に話しにくい時は、専門機関に相談しましょう。

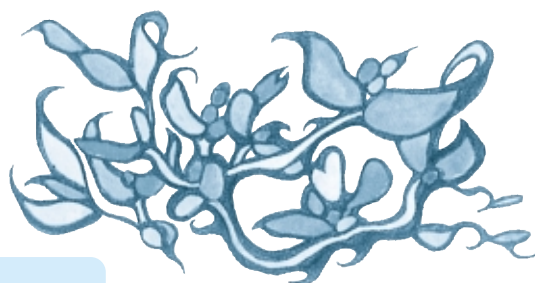


苦手な教科やいやなことがある日に登校をしぶるとき

はたらきかけ

- ・ 担任へ配慮を依頼する。
- ・ よい面を伸ばす。

- 苦手意識を持っていることを担任の先生に連絡し、配慮をお願いしましょう。
- 本人の気持ちを十分に聞き、親の苦手なことを話してみるなど、苦手意識に共感することも大切です。
- 本人のもっている特技やよい面が出せる場をできるだけつくり、できたことを大いにほめて、自信がもてるように援助しましょう。
- キャンプや山登りなどの自然体験活動に参加させ、「やり遂げた」「成功した」喜びを経験できるようにするのもよいでしょう。



身体上の理由などで登校をしぶるとき

はたらきかけ

- ・ 自信をもたせる。
- ・ 気軽に外に連れ出す。

- 医師の診断などを受けても改善されない悩みの場合は、本人の持っているよい面が伸ばせる場面を積極的につくり、自信がもてるように援助しましょう。
- 家の中に閉じこもってしまう傾向が強いので、友だちの目を気にしなくてもよい校区外などへ、気軽に出かける機会をつくりましょう。
- 担任には、本人の悩みをきちんと伝え、配慮をお願いしましょう。

転校が原因で登校をしぶるとき

はたらきかけ

- ・ 子どもの不安を取り除く。
- ・ 友だちづくりに協力する。
- ・ 担任に協力を依頼する。



- 急激な環境の変化は、親が考えている以上に子どもに大きな影響を与えることを理解するようにしましょう。
- 「情けない子ね」「しっかりしなさい」などの批判的な言葉は絶対にやめましょう。
- 学級に1人でも話せる友だちができれば不安は解消します。本人が望むなら、友だちづくりの手助けをするのもよいでしょう。

きょうだいの不登校を理由に登校をしぶるとき

はたらきかけ

- ・ 個々に対応し、相談も別々にする。
- ・ 早めに専門機関に相談に行く。
- ・ 規則正しい日常生活を送れるようにする。

- きょうだいでも悩みはそれぞれ異なります。学校や専門機関への相談は、それぞれ個別に行いましょう。
- それぞれの担任に協力してもらい、学校に行く目的意識をしっかりともてるようにしていきましょう。
- きょうだいで家にいると、居心地が良くなり、規則正しい生活ができにくくなる場合があります。起床、就寝、食事などの時間は最低限守れるようにすることが必要です。

【原因がわからないときの対応】

何でもきっちりやっていた子どもが急に登校をしづるようになったとき

このような子どもは、「学校が大切」「成績第一」という意識が強く、親や先生の指示をよく守るタイプです。何度も考えたあげく、心もからだも疲れ切って休んでしまったのです。子どもにとって重大な決心だったと考えて、無理に登校を促さず休ませてみましょう。

はたらきかけ

- ・ 学校中心という意識を軽くする。
- ・ 失敗してもいいという安心感を持たせる。

- 子どもの気持ちを軽くするために、学校のことや本人の評価などを話題にせずに、本人が興味を持っていることについて話してみましょう。
- 親子でいっしょに遊んだり体験したりして、遊びの楽しさにも気づかせてみましょう。
- 親が失敗したことを話したり、実際に失敗するところを見せたりして、子どもが「完ぺきでなくていいんだ」という安心感を持てるようにしましょう。

登校をしづる理由をきいても本人もよく分からない場合

自分でもなぜ学校に行きたくないのかわからない子がいます。わからないから自分でも悩んでいるのです。こんなときには、悩んでいる子どもの気持ちをわかってもらうことが大切です。

はたらきかけ

- ・ 子どもの気持ちをわかることに重点をおく。
- ・ しつこく追及しない。

- 「なぜ行けないのかわからない」と言う子に、「何か理由があるはず」と追及するような対応は避けましょう。「わからないのはつらいね」というようなかわり方がよいでしょう。
- 親が何をすればいいのかを子どもから教えてもらうことが意外と多いものです。親は「いつでもそばにいるよ」という安心感を与えながら、子どもの様子を細かく見守りましょう。

2 全く学校へ行かなくなってしまったとき

■ 子どものようす

- ・ 家から出ようとしない。買い物に行かない。外出もしない。
- ・ 自分の部屋から出ようとしない。食事・入浴などのときだけ出てくる。
- ・ 親に反抗的な態度をとる。何を聞いても話そうとしない。

「そっとしておいて欲しい」という気持ちと「放っておかれると寂しい」という複雑な気持ちを抱えています。自分の気持ちを理解してくれる人を求めているのです。こんな時は思い切って親も子も発想の転換をしましょう。

はたらきかけ

- ・ 学校というストレスから解放させる。
- ・ 行動を促すときは必ず意志を確認する。うなが
- ・ 担任や友だちからの伝言は伝える。



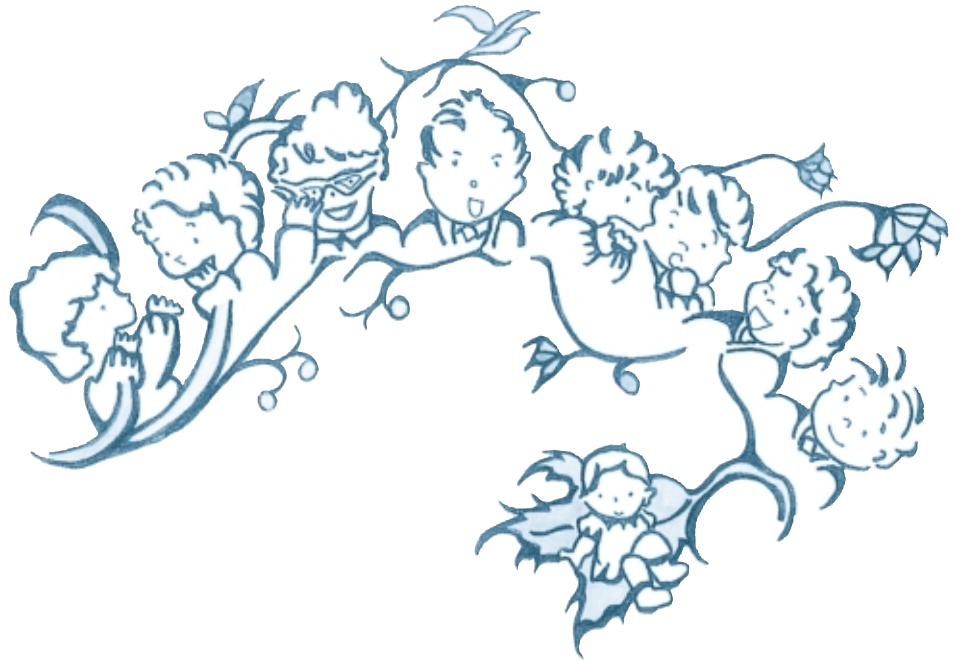
- 子どもが今何を願っているかを理解しながら必要なはたらきかけやかかわりを持つことは重要です。
- 子どもとのコミュニケーションの基本は子どもの意志を大切にすることです。
- 担任とは電話、手紙、面会などで常に連絡をとるようにしましょう。
- 親や家族が疲れないよう気をつけましょう。
- 学校や関係機関との連携が大切です。気軽に相談することも大切です。

幼児期のように甘えるようになったとき

「学校へ行くとつらいことばかりなんだ。だれもこんな気持ちわかってくれない。安心できる場所がほしい。それは家族のそばなんだ。」という場合と、「親と離れるのが不安で仕方がない」場合とがあります。

はたらきかけ

- ・ 甘えてくるときは、思いっきり甘えられるようにする。
- ・ 安心できる居場所づくりに専念する。
- ・ 時々買い物などでいっしょに外出する。



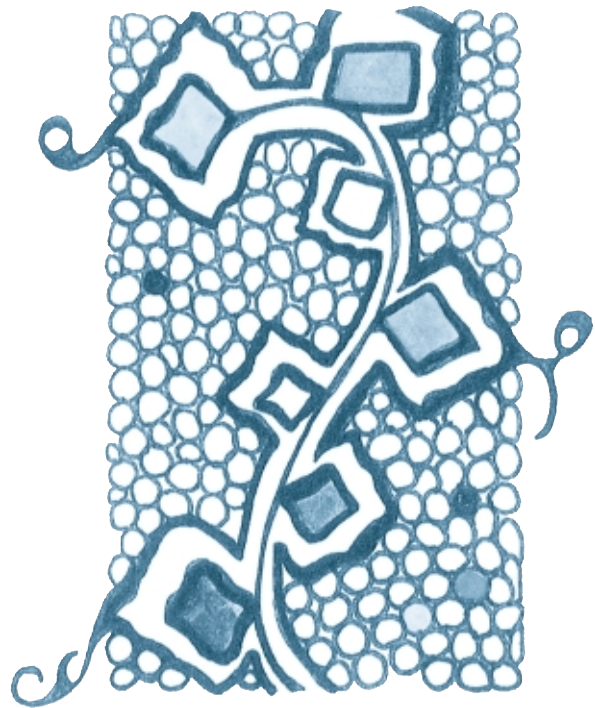
- 家にいたい、親のそばにいたいという気持ちを理解しましょう。そして、「もう4年生なんだから」とか「そんなに甘えるのはおかしいよ」などとは言わない方がよいでしょう。
- 親と離れるのが不安な場合は、家族の中に役割などを意識させ、責任をもってする仕事などを考えるのがよいでしょう。
- 友だちや親類など家族以外の人とのかかわりを徐々にもつようにしたり、時には子どもといっしょに外出したりすることも大切です。

親に反抗的な態度や言動が頻繁になったとき

「何がつらいのか、何を言いたいのかわかってほしいし、学校へも行きたいし、友だちとも遊びたい、でもできない」など自分の気持ちを親にわかってほしいのです。「もっとこっち向いて」という気持ちを持ちながら反抗しているのです。

はたらきかけ

- ・ まず、話を聞く。
- ・ 反抗する子どもから逃げない。



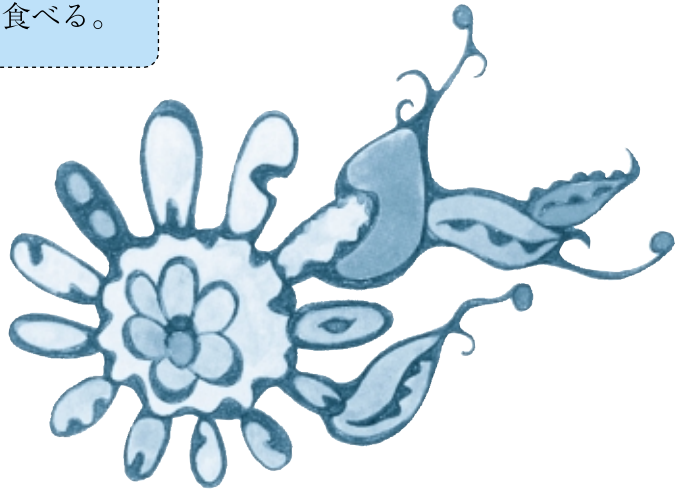
- 反抗的な態度を非難したり、説教しても解決の糸口は見えてきません。何に苦しんでいるのかなどを理解しようという態度で聞いてみて下さい。そのためには、まず、「受け入れて、聞く」気持ちをもつことが重要です。
- 子どもが話せるようになれば、解決へのステップと思い、しばらくは言うとおりにしてみましょう。しかし、欲しがるものすべてを安易に買って与えてもあまり意味はないでしょう。親として精いっぱいの誠実さを見せてほしいものです。

生活の乱れがひどくなってきたとき

家に長く居ると、昼夜が逆転するなど生活リズムの乱れが徐々に出てくることもあります。基本的な生活習慣の確立は、小学生にとって最も大切なことのひとつです。学校へ復帰する準備として日常の生活は規則正しくするよう^{うなが}に促しましょう。

はたらきかけ

- ・ 朝は決まった時刻に起こす。
- ・ 食事はできるだけいっしょに食べる。



- 生活リズムの乱れは「学校へ行かない」ことに親が慣れてきたころに起こってきます。成長段階の子どもにとって絶対に好ましくありません。
- 夜寝るのがどんなに遅くなったとしても、朝は必ず一度起こしましょう。その後、眠ったとしてもかまいません。学校へ行くようになるための大切な準備だと思って根気よく続けましょう。
- 規則正しく食事をとることは、成長のため最も大切なことです。親がいっしょに食べることで子どもは安心します。
- 夜、出歩いたりする場合は、学校との連絡を密にするのと同時に早めに専門機関に相談しましょう。

学校復帰の兆しが見えてきたとき

友だちの話をし始める。学校からのプリントなどを何となく見ている。かばんや教科書などを気にし始める。そのような態度が見受けられたら学校復帰の兆候と見ていいと思います。うれしくなるものですが、あせらずに対応しましょう。

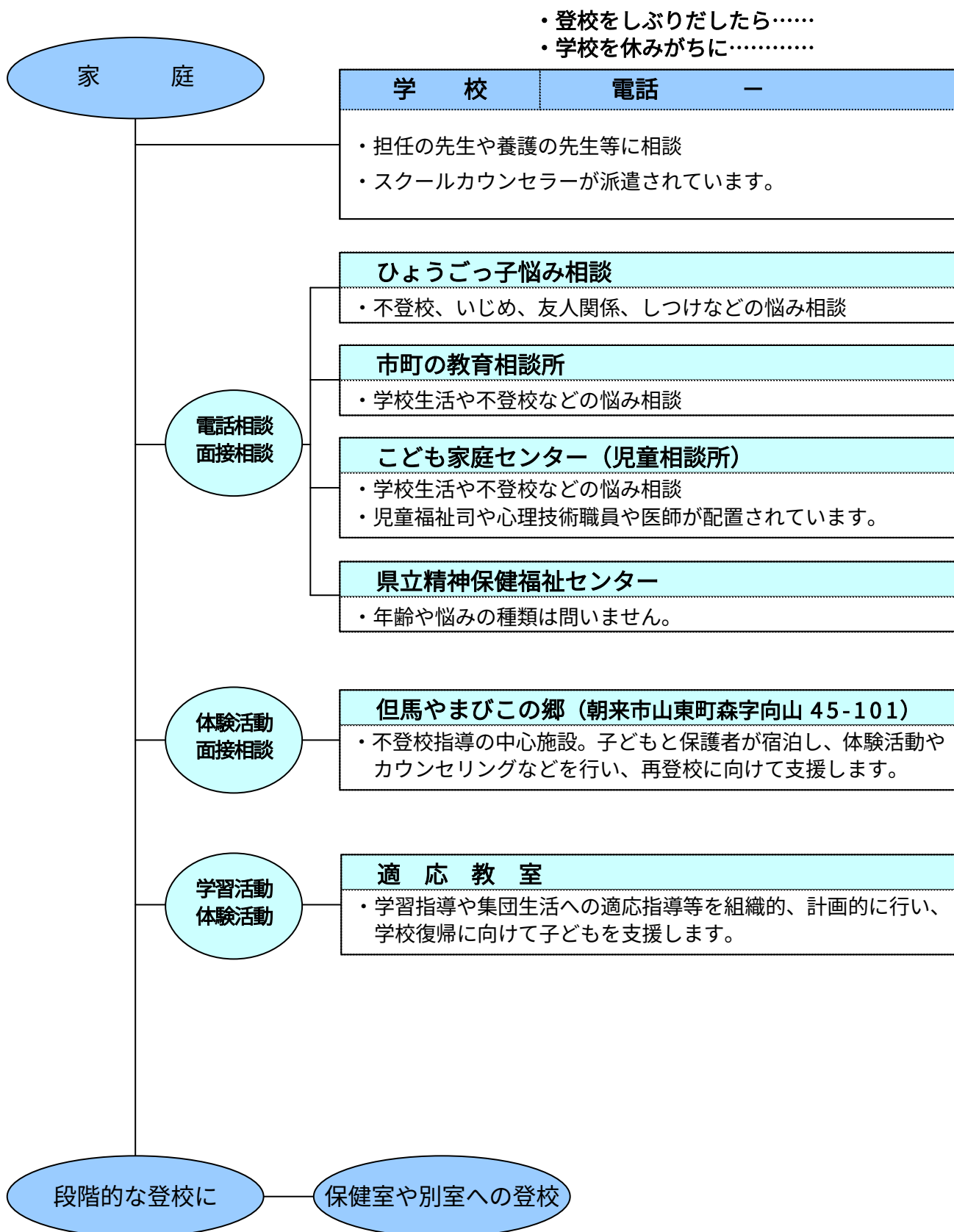
はたらきかけ

- ・ 静かに状況を見守る。
- ・ あせって登校を促さず、子どものペースに合わせ^{うなが}て対応する。
- ・ 学校に受け入れ態勢を依頼する。



- 学校復帰に向けたいろいろな行動が出てくると、親はすぐに次の段階へと気持ちは高ぶります。しかし、その気持ちは子どもへのプレッシャーとなりかねません。静かに状況を見守っていく態度こそ、子どもが自分の力で解決していく第一歩になります。
- 子どもの言動の変化に気づいたら、無理のないペースで子どもといっしょに行動するようにしましょう。学校からのプリントを見て話しかけてきたときなどは、「うなづく」だけで十分でしょう。
- 学校では友だちの存在が大きいようです。担任の先生に連絡をとり、一番仲のよい友だちなどの協力を依頼しましょう。

V 相談はどこでできますか？



(平成23年12月現在)

○ひょうごっ子悩み(いじめ)相談 (ひょうごっ子悩み相談センター内) 電話受付 0120-783-111 (携帯電話からは) 0795-42-6004 電話相談 毎日 9:00~21:00 面接相談 予約制 9:00~17:00	各分室等(受付 月~金 9:00~17:00) 阪神教育事務所分室 0798-23-2120 宝塚教育振興室分室 0797-85-6546 播磨東教育事務所分室 079-421-0115 加東教育振興室分室 0795-43-0065 播磨西教育事務所分室 079-224-1152 光都教育振興室分室 0791-58-2326 但馬教育事務所分室 0796-24-1520 丹波教育事務所分室 079-552-6059 淡路教育事務所分室 0799-22-4152 (神戸市内) 神戸教育総合センター 教育相談指導室 0120-790-783
--	---

各市町に相談窓口

神戸市子ども家庭センター 078-382-2525	姫路子ども家庭センター 079-297-1261
西宮子ども家庭センター 0798-71-4670	豊岡子ども家庭センター 0796-22-4314
尼崎主任(障害相談) 06-6423-0801	中央子ども家庭センター洲本分室 0799-26-2075
川西子ども家庭センター 072-756-6633	川西子ども家庭センター丹波分室 0795-73-3866
中央子ども家庭センター 078-923-9966	

電話相談 078-252-4987	月~金 9:30~11:30、13:30~15:30
面接相談(予約) 078-252-4980	月~金 午前中

電話相談 079-676-4724	月~金 9:00~17:00
面接相談 (来所相談)	月~金 9:00~17:00

市 町 名	教 室 名	電 話	市 町 名	教 室 名	電 話
神戸市	くすのき教室	078-341-0888	加西市	ふれあいホーム	0790-42-3723
	みなと分室	078-341-0888	加東市	ふきのとう	0795-42-3158
	ひがし分室	078-431-5998	多可町	ほのぼの教室	0795-32-2385
	きた分室	078-594-1633	姫路市	ふれあい	079-224-5843
	ほくしん分室	078-987-3109	神河町	ユース	0790-34-0030
	ながた分室	078-579-0806	市川町	どんぐり教室	0790-26-1010
	きたすま分室	078-793-5422	福崎町	のぞみ教室	閉鎖中
	たるみ分室	078-707-4069	相生市	コスモス教室	0791-24-2118
尼崎市	にし分室	078-991-6446	赤穂市	ふれあい教室	0791-43-7851
	はつらつ学級	06-6436-0176	たつの市	赤とんぼの里"やすらぎの部屋"	0791-63-4373
西宮市	あすなろ学級	0798-67-6860		ゆうあい教室	079-322-1364
芦屋市	のびのび学級	0797-23-8567		すずめの学級	0791-72-6577
伊丹市	やまびこ館	072-783-0810	宍粟市	さつき学級	0790-63-3751
宝塚市	学習支援室	072-780-2480	佐用町	ほっとルーム	0790-86-1211
	Palたからづか	0797-87-7129	豊岡市	ふれあいセンター	0796-24-8303
川西市	青少年の家「セオリア」	072-757-8080	香美町	教育相談センター	0796-36-3850
三田市	あすなろ教室	079-559-1868	養父市	子どもサポート教室	079-664-1627
猪名川町	STEPIいながわ	072-765-2065	篠山市	ゆめハウス	079-590-8111
明石市	もくせい教室	078-918-5096	丹波市	レインボー教室	0795-72-1200
加古川市	わかば教室	079-421-5484	洲本市	びゅーばる	0799-22-4547
高砂市	のびのび教室	079-443-0115	南あわじ市	三原適応教室	0799-43-5021
稲美町	ふれあい教室	079-492-9149		緑適応教室	0799-44-3001
播磨町	ふれあいルーム	079-437-4141		西淡適応教室	0799-36-5960
西脇市	はればれ教室	0795-22-8080		南淡適応教室	0799-50-3031
三木市	みつきいルーム	0794-83-2020	淡路市	淡路市立青少年センター	0799-86-0244
小野市	みらい	0794-63-4175	淡路市	淡路市立青少年センター北淡分校	0799-82-1144

◎ 引用図書

「子どもたちが語る登校拒否ー402人のメッセージ」 株式会社 世織書房
(詩 「9歳のだっこ」「キャッチボール」)

◎ 参考文献

児童相談所レポート「すこやかな成長を願って」 (兵庫県)
学校教育相談の理論・実践事例集「登校拒否のすべて」 (第一法規)
生徒指導資料「登校拒否問題への取組みについて」 (文部省)
登校拒否問題指導資料「心のキャッチボール」 (兵庫県立但馬やまびこの郷)
平生9年度県立但馬やまびこの郷研究紀要 創刊号
不登校への対応について (文部科学省)

◎ さし絵

中村美枝子



「いってきま～す」

作成 兵庫県教育委員会
神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

